

科目名	アイデアソン・ハッカソン演習 2							年度	2025
英語科目名	Ideathon Hackathon Exercise 2							学期	後期
学科・学年	A I システム科 2年次	必／選	必	時間数	30	単位数	1	種別※	演習
担当教員	岩堀 信一		教員の 実務経験		有	実務経験の 職種		プロジェクト マネージャ	
【科目の目的】 チームメンバーと協業して、成果物を完成させられるようになることを本科目の目的とする。									
【科目の概要】 アイデアソン・ハッカソンが何かをしり、実際にすすめていく。チームでの取り組みの中で、コミュニケーションをしっかりとる。発表の場にて自らのアイデアを伝えていく。プロトタイプに関する中間発表も実施する。成果物を完成させられるだけのプログラミングスキルが必須となるため、不足技術は自ら授業外で能動的に学習することが求められる。									
【到達目標】 本科目の到達目標を以下のとおりとする。 ・最後まで成果物を完成させることで、専門技術の向上を目指す ・新しいサービスや機能に関するアイデアを生み出すことができるようになる ・自分のアイデアをプレゼンテーションで相手に正確に伝えることができるようになる ・客観的な評価を受けた際にその内容を次につなげる改善する力を身に着ける									
【授業の注意点】 本科目は実習形式をとるため、授業出席、積極性が重要となることをよく理解して受講すること。また、成果物の完成に必要なスキルを有していない場合は、能動的に学習することも必要となる。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル 5 優れている	レベル 4 よい	レベル 3 ふつう	レベル 2 あと少し	レベル 1 要努力				
到達目標 A プロジェクト管理能力	プロジェクトを効果的に管理し、リスクを最小限に抑える能力がある	チーム全体の進捗を監視し、問題を予測して対処する能力がある	計画の変更に柔軟に対応し、リソースを効果的に管理する能力がある	計画を立て、それを追跡する能力があるが、柔軟な変更はできない	タスクの優先順位をつける基本的な理解がある				
到達目標 B チームワークとコミュニケーション	バックグラウンドが異なるメンバーとコミュニケーションを取れる	チームのモチベーションを高めるリーダーシップを持っている	チーム内の意見や対立を調整し、合意を形成する能力がある	チーム内の意見を収集し、共有する能力がある	チーム内の対立を避ける傾向がある				
到達目標 C 技術的なスキルの適用	技術的課題に対して独自の革新的な解決策を提案する能力を持っている	新しい技術的手法を迅速に学び、適用する能力がある	複数の技術的手法を組み合わせて効果的な解決策を見つける能力がある	特定の技術的手法を使用して問題を解決する能力がある	基本的な技術的知識を持っているが、実際の問題解決には適用困難				
到達目標 D クリエイティブ思考	革新的なアイデアを生み出し、それを実現する戦略を持っている	複雑な問題に対して独自の解決策を提案する能力がある	独自のアイデアを形成し、それを実現するための方法を考えられる	既存のアイデアを組み合わせて新しいアイデアを生み出せる	既存のアイデアを適用する能力がある				
到達目標 E アイデアのプレゼンテーション	聴衆を動かす、感動的なプレゼンテーションを行う能力を持っている	複雑なアイデアや解決策を簡潔に伝える能力がある	聴衆の興味を引きつけ、意見を取り入れることができる	明確なメッセージを伝えるプレゼンテーションを行う能力がある	基本的なプレゼンテーションの技術を持っているが、説得力に欠ける				
【教科書】									

13	成果物作成 (4)		3	品質評価とアウト プットのまとめ	製造・実装が完了した後に品質を客観的に評価す るための方法や基準を学ぶ	2	
14	成果物発表と他 者評価 (1)	制作物の発表を行 い、 他チームの発表を評 価する	1	効果的な発表	制作物や新サービスの特性、価値、実現性を明確 に伝えるための発表技術を学ぶ	2	
			2	他者評価	他チームの発表に対してフィードバックを提供す る	2	
15	成果物発表と他 者評価 (2)		3	オープンマインドの 養成	他者の作品や発表を評価する過程で、新しい視点 や知見を取り入れる	2	
評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他							
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった							
備考 等							